

27年4月研修会
「長岡京跡と桜を訪ねる」
資料

奈良・人と自然の会

歴史文化クラブ
(4月14日)

行程表

- 8:30 近鉄奈良駅前 出発
(全行程：マイクロバスで巡ります)
- 10:00 向日市文化資料館 (向日市役所 駐車場で下車)
(ボランティアの会・ガイド 大村仁様の案内)
- 10:40 長岡宮大極殿・後殿跡
- 11:00 朝堂院跡
朝堂院西第四堂跡、翔鸞楼、会昌門跡
- 11:20 石塔寺・鳥坂
(鳥坂は藤原種継の暗殺された所)
- 11:35 勝山公園・・・昼食(約30分)
12:10 向日市役所 駐車場 出発
- 13:00 仁和寺 駐車場
(約1時間半、自由行動)
御殿拝観：500円
伽藍特別入山：500円(御室桜の庭園が見られます)
出発の5分前には、(バス) 駐車場に戻って下さい
- 14:30 仁和寺 駐車場 出発
- 16:00 近鉄奈良駅前 着・・・解散

長岡京跡

長岡京は 784 年～794 年の 10 年間であったが、歴史的には奈良時代に分類される。794年に平安京に遷都され、これから平安時代が始まる。

長岡京(ながおかきょう)は、784 年(延暦3年)桓武天皇の勅命により造営され、平城京の地理的弱点を克服しようとした都市であった。長岡京の近くには桂川や宇治川など、3本の大きな川が淀川となる合流点があった。全国からの物資を荷揚げする港「山崎津」を設け、ここで小さな船に積み替える。そこから川をさかのぼると直接、都の中に入ることができた。陸路を使わざるを得なかった平城京の問題を解消できた。

都の建築開始からわずか半年で宮殿が完成していた。その宮殿建設では、反対勢力や遷都による奈良の人々への影響を意識した段取りをする。当時、宮殿の建設では元あった宮殿を解体して移築するのが一般的であったが、平城京から宮殿を移築するのではなく、難波宮の宮殿を移築した。

遷都に反対する勢力は造長岡宮使の藤原種継を暗殺した。桓武天皇の皇太弟・早良親王もこの叛逆に与していたとされ幽閉・配流となったが、親王は配流先に向かう途中、恨みを抱いたまま死去する。(親王の追称(おくりな)は崇道天皇で、御陵は奈良市八嶋町にある)

早良親王の死後、日照りによる飢饉・疫病の大流行や、皇后ら桓武天皇近親者の相次ぐ死去、伊勢神宮正殿の放火、皇太子の発病など様々な変事が起こったことから、その原因を陰陽師に占わせたところ、早良親王の怨霊に因るものとの結果が出て親王の御霊を鎮める儀式を行う。

しかし、その直後と2ヵ月後の2度の大雨によって都の中を流れる川が氾濫し大きな被害を蒙ったことから、和気清麻呂の建議もあって遷都僅か10年後の 794 年(延暦13年)に平安京へ遷都することになる。

791年(延暦10年)平城宮の諸門を解体して長岡宮に運ばせたものの、実際には使用されずそのまま平安宮に転用されている事から、延暦10年の段階で既に長岡京の廃止決定と新たな都の計画が進められていたと考えられている。

なお、近年まで「幻の都」とされていたが、1954年(昭和29年)より、発掘が開始され、翌年大内裏朝堂院の門跡が発見された。1962年(昭和37年)大極殿跡が発見され、1964年(昭和39年)に国の史跡に指定された。

(建設途中で放棄されたという説もあったが、実際にはかなり完成された都であった。)

長岡京の規模は平城京や平安京とほぼ同じで、東西約 4.3 キロメートル、南北約 5.3 キロメートルで、朱雀大路を中心に区画されていた。国家の政務・儀式を執り行う朝堂院も、東西に4つずつの8棟があり、南門は2つの楼閣を持つ荘厳なつくりになっていた。

以上

仁和寺

仁和寺(にんなじ)は、大内(おおうち)山の南麓、双ヶ岡(ならびがおか)の北に位置する御室(おむろ)にある。高雄へ向う周山街道筋に建ち、3 万坪の広大な境内を有している。

最初の門跡寺院であり、「仁和寺門跡」、「御室御所」ともいわれた。山号は大内山という。

真言宗御室派総本山。本尊は阿弥陀三尊、密教系寺院で安置するのは珍しいという。

◆歴史

平安時代、886 年、第 58 代・光孝天皇(830-887)の勅願により**創建**された。寺号は、年号「仁和」により天皇により仁和寺と名付けられた。

1186 年、守覚法親王は、空海が唐より持ち帰った經典類の書写『三十帖冊子』と空海筆の両界曼荼羅を東寺経蔵より仁和寺・大聖院経蔵に借覧、移す。以後、仁和寺が真言宗の主となる。

1468 年、応仁・文明の乱(1467-1477)で、仁和寺に陣を敷いた西軍と攻撃を仕掛けた東軍の戦があり、東軍が攻め入り仁和寺は焼失する。

寛永年間(1624-1644)、徳川家光の寄進によりに次々に堂宇が再建された。紫宸殿、清涼殿、常御殿などが移築される。御影堂、五重塔、観音堂など現在の建物の多くは、この時の再建。

1646 年、覚深法親王により伽藍の造営が完成し、落慶法要が執り行われる。この頃、桜も植樹される。野々村仁清が仁和寺御用窯(御室焼)を開く。

1871 年、江戸幕府の定めた三門跡制(宮門跡、摂家門跡、准門跡)は廃止となり、門跡の称号も廃された。御所号、門跡、院家などの呼称は廃止され、千年の門跡寺院の歴史は終焉した。

1924 年、御室桜は国の名勝に指定された。

現代、1994 年、ユネスコの**世界遺産**に、古都京都の文化財として登録された。

◆**建築** 伽藍配置は、南の二王門から中門、東西に五重塔、観音堂を挟んで金堂と、二つの門と金堂は等間隔に一直線上に配され、その背後(北東)に御陵のある大内山がある。

「二王門」(重文)は、江戸時代、1637 年-1644 年頃完成。

「中門」(重文)は、江戸時代建立

「金堂」(国宝)は、御所紫宸殿を、江戸時代、1637 年に移築した。1613 年造営という。慶長期の紫宸殿の構造をほぼ受け継いでいる。

「御影堂」(重文)は、旧清涼殿の材を用いて建立。

「五重塔」(重文)は、江戸時代、1637 年、1644 年の完成ともいわれ、各層はほぼ同じ大きさ(遞減率が低い)になっており、総高 36.18m。

◆**仏像**「阿弥陀三尊像」(国宝)は創建時の金堂・本尊であった、「阿弥陀如来坐像」(89.5 cm)、左脇侍に「観音菩薩立像」(国宝)(123.3 cm)、右脇侍に「勢至菩薩立像」(国宝)(123.4 cm)。

◆**茶室**「遼廓亭(りょうかくてい)」(重文)は、江戸時代、天保年間(1830-1844)に門前にあった尾形光琳(1658-1716)邸から移築されている。

◆**野々村仁清・御室焼** 江戸時代前期に陶工・野々村仁清が仁和寺門前に御室窯を開き御室焼を始める。清水焼は、寛永年間(1624-1644)に、仁清により始まったともいう。

以上

参考資料・年表 1

- 710年 (和同三年) 元明天皇の時、平城京遷都
- 724年 (神亀元年) 聖武天皇即位
- 729年 (天平元年) 長屋王の変、光明子立后
- 737年 (天平九年) 天然痘の大流行により藤原4子死亡し橘諸兄が権力を握る
- 749年 (天平勝宝元年) 聖武天皇退位し娘の阿倍内親王が孝謙天皇として即位
- 752年 (天平勝宝四年) 大仏開眼供養
- 757年 (天平勝宝九年) 橘奈良麻呂の乱
- 764年 (天平宝字八年) 藤原仲麻呂の乱
- 769年 (神護景雲三年) 宇佐八幡宮神託事件起こる。和氣清麻呂が別部磯麻呂と改名させられ大隅の国に流される
- 770年 (神護景雲四年) 称徳天皇崩御、道鏡下野国薬師寺に追放される
- 770年 (宝亀元年) 白壁王即位し光仁天皇となる
- 772年 (宝亀三年) 呪詛による大逆の密告で井上皇后、他戸皇太子が廃される
- 773年 (宝亀四年) 式家の藤原百川らが擁立する山部親王が皇太子となる
- 781年 (天応元年) 光仁天皇崩御し山部親王が即位し桓武天皇なる。同母の弟、早良親王を皇太子とす
- 784年 (延暦三年) 長岡京遷都
- 785年 (延暦四年) 九月造長岡宮司の藤原種継が暗殺される、大伴家持は八月に死亡していたが首謀者として官位を剥奪される。事件に連座していたとして早良親王の皇太弟廢嫡、配流・憤死に発展する
- 800年 (延暦十九年) 早良親王に崇道天皇の名前が贈られた
- 806年 (延暦二十五年) 桓武天皇崩御し長子の安殿親王が平城天皇となる
- 809年 (大同四年) 病気のため平城天皇が同母の弟神野親王に譲位し太上天皇となる
- 810年 (大同五年) 薬子の変、平城太上天皇は妃の母である種継の娘薬子を寵愛していたが、嵯峨天皇との対立が決定的となり挙兵したが、天皇側に阻まれ剃髪して仏門に入り、薬子は毒を飲んで自殺をした。

参考資料・年表2

平城京遷都(710年)の目的

元明天皇は遷都に乗り気ではなかったが、執政の藤原不比等が強引に唐の都長安を真似て平城京を造営し都を移した。不比等の狙いは権力を握り、娘を天皇の後宮に入内させ外戚となり藤原氏による政治を目指そうとしたのである。

長岡京遷都(784年)の目的

桓武天皇は平城京で強大な南都仏教勢力の影響力を嫌ったこと。皇統が天武系から天智系へ戻ったことにより天武系豪族の力を削ごうとした。山城国では秦氏が勢力を持っていたが大半は未開の土地であった。藤原種継を造宮司としたのは、種継の母方が秦氏の出であったから秦氏の協力を取り付けたい思惑があった。当時の遷都は莫大な費用がかかるため、大極殿のような建物は解体し、現地で再度組み立てることが通常であった。

藤原種継暗殺の背景

種継は藤原宇合の孫であり式家である。光仁天皇擁立に藤原式家が功があり、式家の発言力が高まった。一方天皇家を支える軍事氏族である名門大伴氏は弱体化し氏の長者大伴家持は失意の内に赴任していた陸奥国で没した。種継暗殺に早良皇太子が関与していたかどうかは定かではないが、春宮御所(東宮御所)勤務の大伴氏の一族や皇族、藤原北家の藤原小依が反藤原氏(式家)連合を作っていたものと思われる。捕まった者たちは死罪や流罪となったが、いずれも延暦二十五年(806年)桓武の死と共に復権している。

1

桓武天皇即位までの陰謀と怨霊の祟り

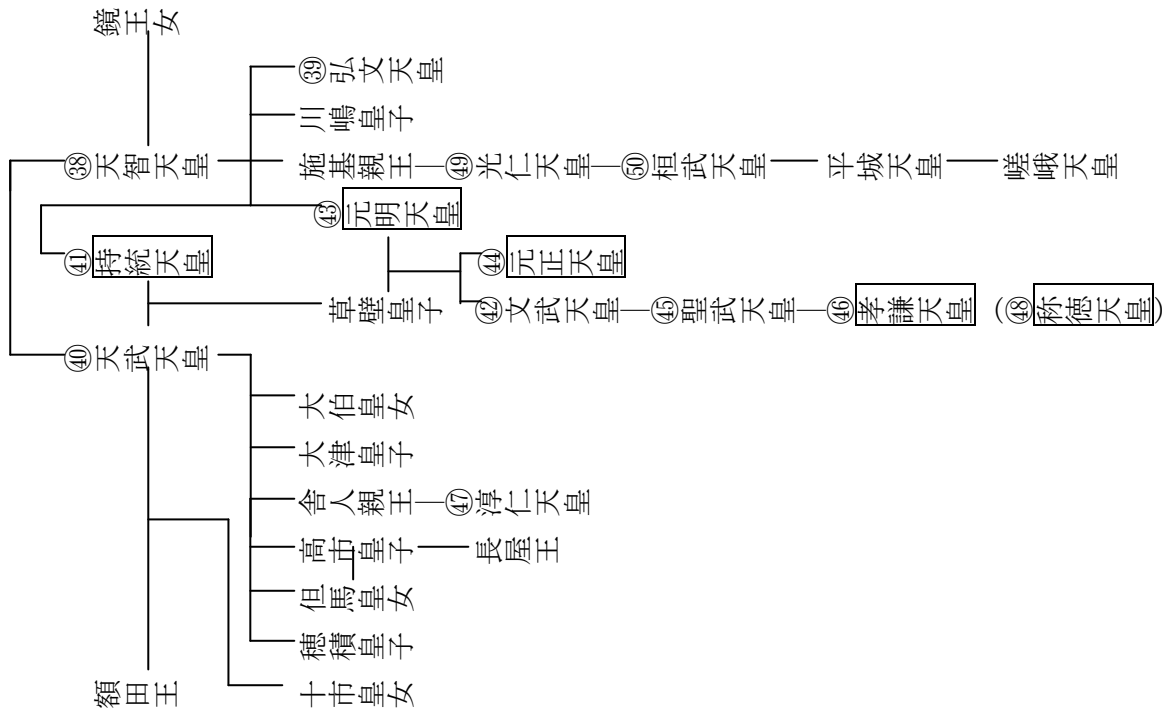
式家藤原百川らの陰謀?により井上皇后とその子他戸皇太子が廃され、後に殺された。これにより皇位継承者ではなかった山部王が皇太子となり、後に即位して桓武天皇となった。桓武の妃として擁立に功のあった式家より藤原乙牟漏、藤原旅子が後宮に入った。その後、藤原種継暗殺事件に連座したとして早良親王が皇太子位を廃される。その後、桓武の周辺では788年に夫人藤原旅子と母高野新笠が、789年に皇后乙牟漏が相次いで病没している。また792年には皇太子安殿親王も病気になった。また畿内に洪水が起こるなど凶事が続いた。こうしたことから桓武はこれらは怨霊の祟りによるものであると恐れ各地の寺社に命じて怨霊鎮めの祈祷を行わせた。また、早良親王には崇道天皇を贈り名し霊を慰めようとした。

平安京遷都(794年)

相次ぐ身内の不幸や、畿内に頻発する洪水や疫病の流行で桓武天皇は長岡京の建設を続行すべきか悩みます。こうした中で天皇の信任厚い和氣清麻呂は、水害に見舞われやすい長岡京から立地条件の良い山背国葛野郡宇太村(現在の京都市)に都を移すことを進言します。桓武はこの進言を容れ延暦十二年(794年)に都を平安京に移します。同時に副都であった難波京を廃止しました。

参考資料・古代皇統譜

皇統譜



藤原氏系図

